

[感染症内科]

[研修の目標]

抗菌薬および抗真菌薬を適切な適正使用を学ぶと同時に、院内感染対策の基礎を学習する。院内感染対策では MRSA や結核のみならず、血液体液曝露時の対応も理解できるようになる。外来ではエイズ患者や輸入感染症の患者を実際に診療し、適切な治療および感染防御の知識を習得する。また、渡航ワクチンについての知識も修得できる。

[研修指導者]

田島靖久（感染症内科部長）

臨床研修指導医、日本内科学会認定医、日本内科学会専門医、日本感染症内科学会専門医、プライマリケア認定医、CIC®（Certification Board of Infection Control and Epidemiology）、ICD 制度協議会認定インフェクションコントロールドクター、産業医

[研修コース]

当院内科ローテーションの一環として行う。

[研修指導體制]

一人担当科であるため、一対一対応での研修となる。当科の教育の中軸は『明日のよりよい医療のために今何ができるか』『一専門医である前に一医師であり、一医師である前に一人の人間である』この二つを掲げている。1カ月という短期間での教育であるため、各研修医のなりたい未来の自己像に『感染症を専門としている先輩医師として協力できることは何か』を考え、一緒に成長できればと願っている。

[研修内容および到達目標]

- 1)病歴と身体所見から鑑別疾患を上げ、炎症臓器を特定する。感染性炎症に対しては微生物学的鑑別を行い、確定診断のために必要な検査を実施し、治療としての抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬を適切に選択し、適切な期間投与するプロセスを習得する。
- 2)日常臨床で遭遇する感染症に対しての感染伝播様式に対する造詣を養い、臨床現場では自分で考え、実践できるようになる。
- 3)微生物学検査の基礎を理解し、微生物検査室技師との専門的な内容についてコミュニケーションがとれるようになる。
- 4)やる気に満ち溢れ長期間での臨床研究希望者に対しては、論文作成の指導を行い、学会発表ならびに英文での論文発表を支援し、状況に応じて費用も援助する。